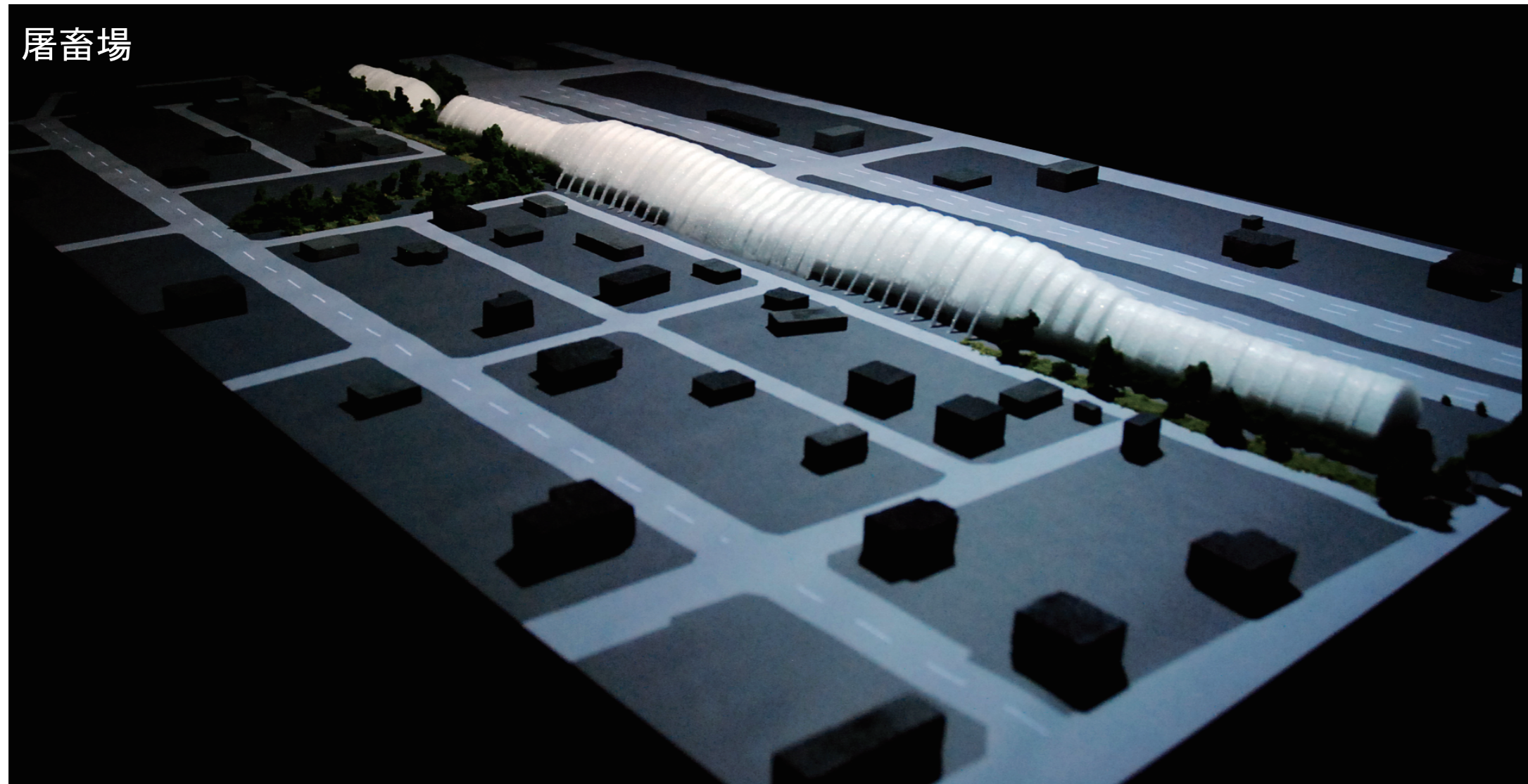


# 屠畜場



## コンセプト

社会に対して新しい形の屠畜場を提案したい。  
現在求められている屠畜場の機能とは衛生的で大量の家畜を効率よく解体出来る事である。しかし、機能だけ追求しても屠畜場と社会との関係は変わらない。  
屠畜場が社会に対して出来る事は、「屠畜」という言葉と共に屠畜場の存在に理解を得る事ではないか。  
そこで、本計画では解体作業の流れや食肉の歴史を展示した資料館を屠畜場内に併設する。そして、公園では日常的には体験出来ない、死を考えることが出来る空間をつくる。そうすることで、食される動物たちに供養の意を敬する。

屠畜場の形状は動物の骨格からヒントを得た。生物のなかにあるフォルムは強固であり、特に骨は生物が死んでもなお、残り続ける物であり、人に訴える力・メッセージ性が強いと考えたからだ。

屠畜は生物のいのちを奪い肉にする行為、つまり殺して生かす。屠畜所の中には死が生まれ、また生も生まれる。

## 屠畜場とは

屠畜場は、牛や豚、馬などの家畜を殺して（屠殺して）解体し、食肉に加工する施設の法律上の定義の名称である。  
現在、各施設の具体的名称は、「食肉処理場」「食肉センター」などの名称が付されているものが多い。

出典 ウィキペディア (Wikipedia)  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%A0%E7%95%9C%E5%A0%B4>

## 背景

1871年（明治4年）以降食肉が社会的に認められ、一部の宗教的また体質的に食肉を受け付けられない人を除いて、多くの日本人が食肉を楽しんでいる。  
しかし、屠畜場は今まで隠された存在として明のみの場には出てこなかった、これには歴史的な差別要因もあるし、屠畜自体が生き物のいのちを奪い肉にしている事で、人目につく事はなかった。  
だが近年BSE問題や食肉偽装問題など、食肉に対する安全性が見直され、食肉の安全性に関心が高まってきているが、屠畜場は社会的にも視覚的にも閉鎖された空間になっており人を寄せ付けない。  
社会的に存在を抹殺されたブラックボックスの様な建物であるが食肉の安全に対して関心が高まっている今こそ、社会に対して新しい屠畜場が必要ではないのか。

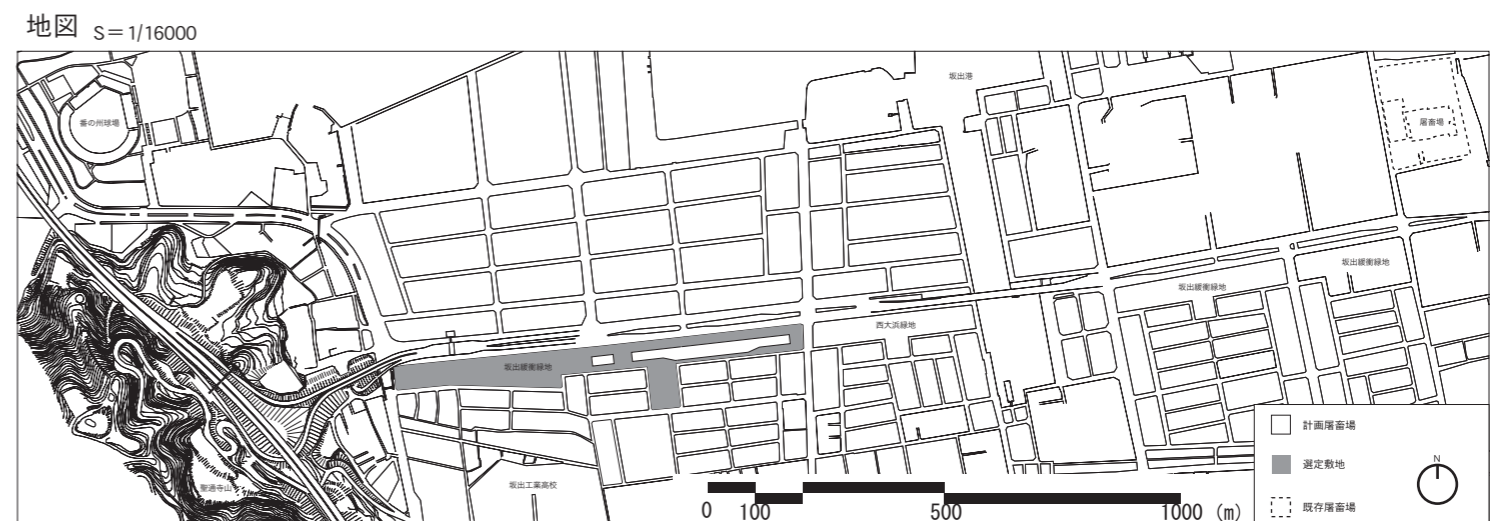
## 敷地

香川県坂出市 坂出干渉緑地帯

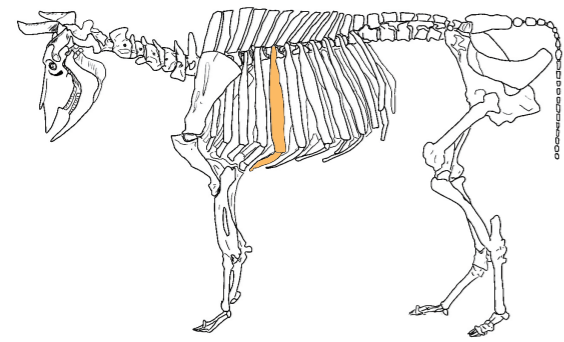
## 敷地選定理由

香川県坂出市 坂出干渉緑地帯の一面を敷地とした。敷地選定の前提として、屠畜場は都市近郊たてられる事が多い。これは牧場から牛を運び、屠畜され食肉として運搬される際に、両方の運搬時間が均一になるようにした為である。

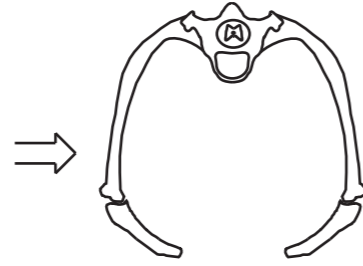
- ・現在の坂出にある屠畜場から計画地は程近く、家畜及び食肉の運搬の便が変わらなかった事。
- ・緑地が長方形に長く、想定していた屠畜場の形状と一致した事。



断面の形状理由

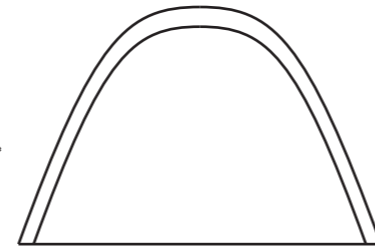


屠畜場の形状は動物の骨格、特に肋骨からヒントを得ている。本計画では大型動物の牛の肋骨を参考にしている。



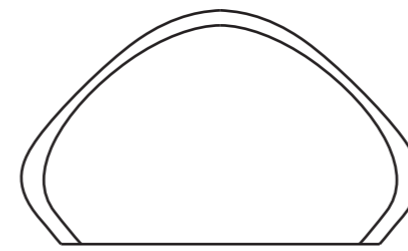
肋骨断面

①牛の骨格から肋骨の断面を取り出す。



アーチ形

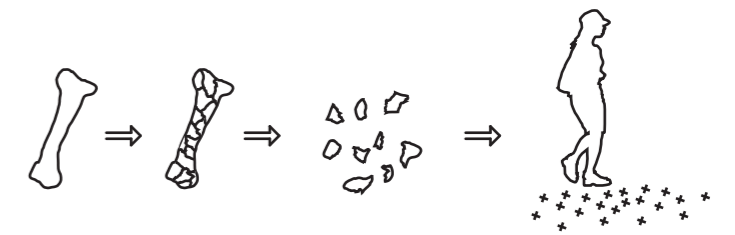
②背骨付近の丸い形からアーチに近い形状にする。



本計画の断面

③アーチを残したまま、肋骨の形に近い形にする。

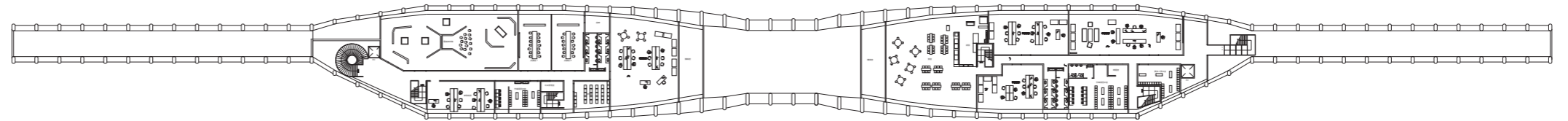
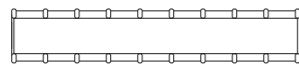
骨の道



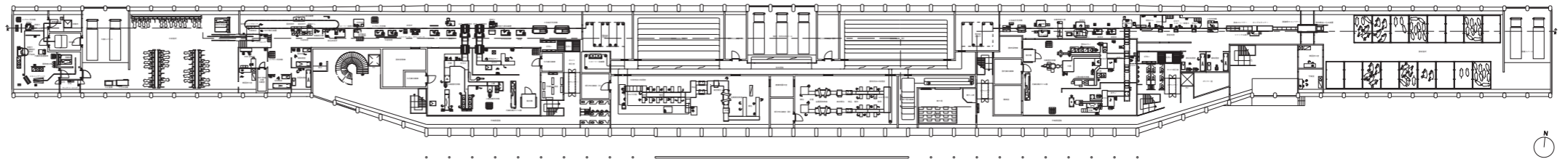
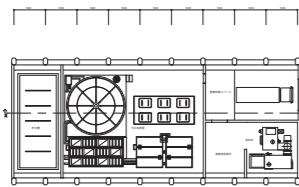
牛や豚の骨を乾燥させ砂利ほどの大きさに砕き、骨の道に敷き詰める。骨の道は空間を閉じることで骨を踏む「ジャリ」という音を反響させる。人はこの空間を通る事で、動物たちの死を連想し、いのちを食べる事を考える。これは人が出来る一種の供養の形である。

図面

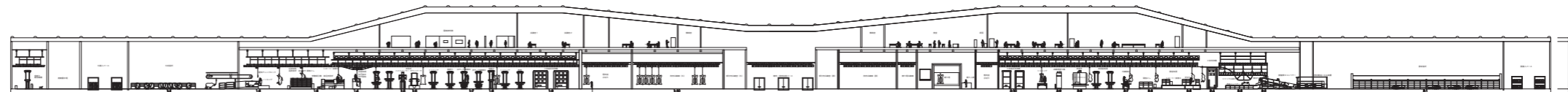
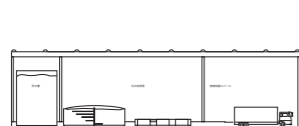
2階平面図  
1/1200



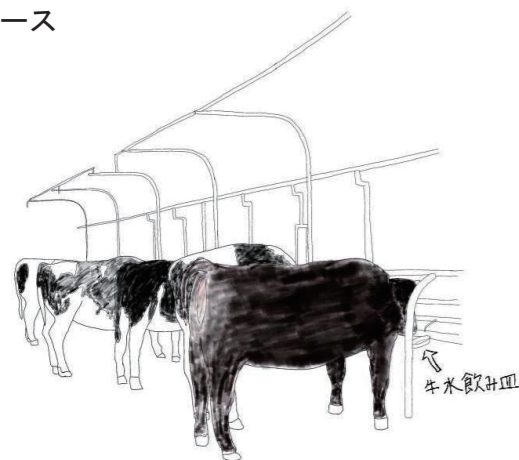
1階平面図  
1/1200



断面図 X-X'  
1/1200



パース



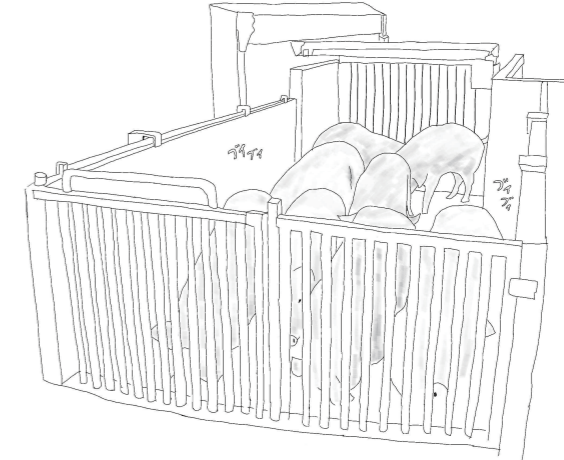
牛係留所パース



牛皮剥ぎパース



豚内蔵出しパース



豚係留所パース